

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護総合演習 I Care Practice Support I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
久保 由佳	福祉棟2階	月～金 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
介護実習に必要な基本的知識について学び、施設生活や在宅生活の流れの中で、利用者を実践的に捉え理解する。また、各授業で学習している知識・技術を具体的かつ実践的に結びつけ、介護の場の理解につなげる。さらに、記録することの意義と必要性を理解し、具体的な記録方法について学ぶ。				
授業の目標				
①介護実習の意義、目的、内容を説明でき、実習をイメージできるようにする。 ②実習先となる施設の概要と利用者像を述べられるようにする。 ③実習生および援助者としての心構えができ、マナーのある行動ができるようにする。 ④実習記録の意義と目的を説明でき、適切に記録ができるようにする。 ⑤各授業で学習した内容を関連づけながら、基礎実習 I に向けた自己の目標や課題を明確にできるようにする。				
授業の方法				
講義、演習、視聴覚教材の視聴、グループワーク、指定図書の見学等、多様な授業形態である。実習記録については演習と個別指導を取り入れる。				
学習の成果 (学習成果)				
他科目での学習内容を復習しながら、社会的マナーを含めた介護実習に必要な基本的知識を習得し、実習に向けた事前学習(準備)をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (授業のねらいと進め方・成績評価の方法など)、見学実習の振り返り (グループ討議) 【見学実習で学んだことおよび感想を提出】			
第2回目	見学実習の振り返り (グループ討議、発表とまとめ)			
第3回目	介護実習の理解 (意義と目的)、視聴覚教材「介護の現場で学ぶ～高校生のための社会福祉実習～」の視聴 【レポート1: VTRを視聴した感想と学び、提出は次回授業時】			
第4回目	「介護実習の手引き」配布・説明 基礎実習 I の準備 (実習先希望調査票の配布、施設情報一覧の見方について説明)			
第5回目	実習先施設の理解① 指定介護老人福祉施設を中心とした生活の場の理解			
第6回目	実習先施設の理解② 介護老人保健施設、通所施設 (デイサービス・デイケア) 【レポート2: 対比表の作成、提出は第12回目の授業時】			

第7回目	実習形態と方法、実習の流れ（事前事後の内容も含む）、介護実習を行うための基準（実習非該当）について【レポート3：「介護っていいなあ！」を講読した感想と学び、提出は第9回目の授業時】	
第8回目	実習時のマナー① 身だしなみ・言葉遣い等（社会的マナーを含む）	
第9回目	実習時のマナー② 心構え、「ほう・れん・そう・かく」、注意事項、事前訪問について	
第10回目	実習時のマナー③ 電話のかけ方、御礼状の書き方	
第11回目	実習記録① 記録の必要性とその方法（「介護実習の手引き」に沿って説明）	
第12回目	実習記録② 実習日誌の記録方法【レポート4：土曜または日曜日の一日を実習日誌に記録する、提出期限は授業で指示する】	
第13回目	実習記録③ 具体的な記録の方法 基礎実習Ⅰの準備（実習関連書類の配布・記入、「課題と抱負」の作成について説明）	
第14回目	実習記録④ 実習日誌の書き方（個別指導） 基礎実習Ⅰの準備（検便容器の配布・説明）	
第15回目	基礎実習Ⅰの準備（実習記録一式を配布）、授業のまとめ（実習記録の書き方・目標の立て方を中心に説明） *基礎実習Ⅰオリエンテーションおよび反省会は別日程にて実施する。	
事前・事後学習	介護の現場および介護実習を具体的にイメージすること。また、生活支援技術やコミュニケーション技術、記録の書き方等、各授業の学習内容を復習すること。実習各期の目標と方法を確認しておくこと。	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	20%	S評価は、①授業で使用する教材を準備し、必要なことはノートにとっている。②課題や実習関連書類の提出期限を守っている。③グループワーク時は他学生の意見を聞いた上で、自分の考えを述べている。
レポート	20%	第3回目、第7回目にレポートを課す。S評価のレポートは、課題のテーマに沿って学びや気づきが具体的に記述されていること。自分の考えがまとめられていること。
調査報告書	20%	指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）と介護老人保健施設の相違点等を対比させ、表にしてまとめる。S評価は、調べた内容をわかりやすく、対比させて記入できていること。詳細は第6回目の授業で説明する。
小テスト		
試験	20%	介護福祉職や介護サービス、それらに関連した法律について、介護福祉士国家試験に準じた内容を出題する。
発表内容（態度含む）		
その他	20%	目標を立て、指定した一日を実習日誌に記録する(第12回目)。S評価は、①記録方法に沿って書くことができている。②一日を振り返り、学びが記述できている。③文字の大きさや字間等、見やすい記録である。
教科書と参考図書		
最新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 福祉小六法 介護実習の手引き		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：介護福祉士、職歴：通算6年） 実習用の証明写真を準備する。費用は自己負担となる。撮影に関する詳細は授業内で説明する。実習時期や準備状況に応じて、授業内容を交替する場合がある。飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机の上に置かない。やむを得ず欠席した場合は、速やかに届け出を提出すること。		